

### 3. スキーインストラクター

「スキー学校スキーインストラクター」という考え方に大きな違いがあり、日本ではスキーの技術を教える先生ですが、サンモリッツではゲレンデガイド的な役割をしています。(コースガイドにとどまらず、ゲレンデ内やサンモリッツ内のレストランの予約、娯楽施設の紹介などサンモリッツにおける全てのアドバイスをを行います)

サンモリッツのスキーインストラクターになるためには、スイスのスキー技術の試験を通過(試験を受けるための試験があり、その試験に合格して初めて本試験を受ける資格を得ることができる)した人がサンモリッツで語学力(3カ国以上を話せる)そしてもっと大切な人柄が試され、合格したものがはじめてサンモリッツのインストラクターになれるそうです。サンモリッツのインストラクターで最も重要視されるのは人柄、人間性であり、客をいかにもてなし喜んでもらえるかが大事です。インストラクターはプライベートな時でも人前で客のうわさ話をすることや、夜間のスキースクールウェアの着用は禁止され、違反した場合は即刻解雇されます。報酬(賃金)は客から直接もらい、所属するスクールに何%かを支払うというシステムになっています。



また、子供のスキー教室が精力的に行われています。(次世代の顧客作りを踏まえて)初心者、低学年向けに専用エリアを作り、安全に楽しめるように指導しているほか、毎週水曜日にジュニアのスキー大会を開き、目標をもてるようにしています。また、町の中心にスクール受付がありその場所で子供を預けると、昼食の世話を含め一日面倒を見てくれるサービスを行っていました。親としても大変便利なサービスではないでしょうか



子供のスキースクール専用エリアに面したレストハウスには室内用の子供遊具、休憩所、仮眠室、食堂が設けられ、スキーに飽きた子供などのフォローも完備されていました。また、子供のスキースクールを見る親のためのテラスなどもありました。

目の不自由な人のためのガイドを行っていました。

インストラクターが後ろから指示を出しながら滑っていきます。この研修期間でも数人いましたので、かなりの人数が利用している模様。

絵の中の赤いウェアがインストラクターで、直接声をかけたり無線を使ったりしていました。

スキー学校には250名以上のインストラクターが登録し、スキー客らが来るのを待っています。

